

『危機によって人は生まれ変わる』

三十八年間にわたり、マクロビオティック(食物による健康法の研究実践)指導を行い、今年三月に福島県いわき市の自宅で被災した、橋本宙八(ちゅうや)氏による講演「食で守ろう 私たちの生命〜フクシマから新しい世界へ〜」が二十三日、松江市乃木福富町の小松電機産業株式会社内、太陽ホールで行われた。

松江

マクロビオティック研究の橋本宙八氏 福島での被災体験交え食の大切さ説く

同社の社長、小松昭一 財団法人人間自然科学
夫氏が理事長を務める 研究所、妻の小松志津



プロジェクトを使いながら講演する橋
本氏 23日、小松電機産業の太陽ホールで

子氏が主宰する「マク
ロビオティックアカデ
ミイスパイラル」の共
催。

橋本氏は、「いかに
簡素な食事で免疫力や
自然治癒力を高めるか」
を研究し、独自のプロ
グラムとして「半断食
による心身改善法」を
開発し、七千八百人に
指導している。

この日は、約百五十
人の参加者を前に、プ
ロジェクターで資料を
提示しながら、自ら体
験した東日本大震災、
福島原発事故発生後の
家族や仲間との避難の
様子を語り、後手に回っ

た当時の政府や東京電
力の対応を指摘。チェ
ルノブイリの汚染地帯
での実状を踏まえ、今
後想定される内部被爆
の危険性も紹介し、
「知って守る、食べて
守る、この地で生きる」
ことが重要だと述べた。
その上で、「放射能か
ら身体を守り、抵抗力
をつけるために、伝統

的日本食を取り戻しま
しょう」と訴えた。ま
た、「福島で起きたこ
とには意味がある。危
機によって人は生まれ
変わる。この危機の中
で生まれる新しい時代
を皆で力を合わせて生
きていきましょう」と
力強く語った。
講演後、参加者のう
ち事前に申し込んでい
た約三十人が同市内の
そば店で、橋本氏とと
もに玄米や自然食の屋
食を楽しみながら交流
した。